



一度重なるけがや大腸がんの治療など、どのような気持ちで困難と向き合ってきたのでしょうか?

— 寄居町のファンの存在はどのようなものでしたか? —  
最近では地元からの応援をSNSで見る機会が多くて、本当にありがたい

— プロ野球選手を志したきっかけを教えてください。 —  
友達が野球をしているところを見て、野球を始めて、そしてプロ野球を見るようになり、そういった中で自然と目指し、夢にしていたという感じです。ジャイアンツ戦は地上波で放送されていたので、数多く目にして、プロ野球選手への憧れを持っていましたね。

— 最後に町民の皆さんへメッセージをお願いします。 —  
プロ野球生活16年間、本当に幸せな野球人生でした。この16年があるのは、寄居町で育ったおかげであり、町全体で応援していただいたことが僕の力になりました。これからプレーヤーとして、皆さんに姿を見せられないことは残念ですが、これから違ったかたちで、また皆さんのお目にかかれるように、必死になって仕事をしたいと思っています。ありがとうございました。

## HERO INTERVIEW

# 原口文仁さん ヒーローインタビュー

— プロ野球生活を振り返って印象に残っているシーンを教えてください。 —

プロ野球生活の中でうれしかった瞬間は、やはり初めてヒットを打った時です。ファーム(二軍)にいる期間が長

かったこともあり、その中で金本さん、掛布さんに、舞台を用意していただいて、そのうえ、小さい頃から大好きだったジャイアンツ戦で、プロとしての一步目をスタートできたことは、本当に印象に残っています。

若い時、一軍の舞台上に上がりたいという思いで、日々練習していましたので「強くなつて復帰する」という気持ちは常に持っていました。

また、病気になってからは、価値観や見え方が大きく変わりました。病気になることは使命だと感じており、病気で頑張っている患者さん、ご家族の方へ勇気や元気を与えたいという気持ちで取り組むようになりました。

— プロ野球選手を志したきっかけを教えてください。 —  
友達が野球をしているところを見て、野球を始めて、そしてプロ野球を見るようになり、高校野球を見るようになり、そういった中で自然と目指し、夢にしていたという感じです。ジャイアンツ戦は地上波で放送されていたので、数多く目にして、プロ野球選手への憧れを持っていましたね。

— プロ野球選手を目指す、町内の子どもたちへアドバイスをお願いします。 —  
夢や目標を高いところに設定し、その目標から逆算して、小さい目標をどのようにクリアしていくかが大切です。それは明日の目標で構わないし、一週間後、一カ月後の目標でも構いません。小さな目標を一つ一つクリアしていくことが、大きな目標にたどり着く道だと思います。努力をコツコツ積み重ねていけば、レベルは必ず上がっていきます。

写真/©阪神タイガース

## Interview

原口さんが小学4年生から所属した少年野球チーム「キングフィッシャーズ」(当時:寄居ビクトリーズ)の皆さんにお話を伺いました。



キングフィッシャーズ・寄居野球の皆さん

原口さんを小学生の頃に指導した田中静雄さん(上の原)は「昔を思い返すと人一倍野球が大好きで、厳しい練習でも決して泣くことのない強い子でした。プロ野球生活では、さまざまな苦労があったらと思います。本当にお疲れさまでした」とねぎらいました。キャプテンの萩原一翔さん(寄居小6年)は「がんと闘いながらも、あきらめない姿を見て元気と勇気をもらいました。僕たちもいつか原口さんの背中に追いつけるように頑張っていきたいです」、坂本琥珀さん(鉢形小6年)は「原口選手のようなプロ野球選手になることが、僕たちの憧れであり目標です。これからもう一生懸命練習を頑張ります」と話してくれました。

## 原口さんのグッズを展示



10月、役場1階展示スペースで原口さんのユニフォームなどのグッズを展示しました。展示品のご協力をいただいた坂本頼章さん(中町)は「プロ初出場された時、とてもうれしかったことを覚えています。阪神タイガースの中でも特に記憶に残る選手でした。引退セレモニーのスピーチも素晴らしかったです」と熱く語っていただきました。

※展示は終了しました。

## 引退セレモニー



10月2日の引退セレモニーで原口さんは「大病を患った時、どうなるか分からない命を病院関係者の皆様に救っていただきました。今こうしてこの場に立っていることがどれだけ幸せなことか実感しています。タイガースファンは世界一です。幸せな野球人生を、最高の時間をありがとうございました」と感謝の思いを伝えました。

原口文仁さん(城南中出身)が今季限りで現役を引退されました。阪神タイガースに入団して16年、お疲れさまでした。多くの感動をありがとうございました!

# ありがとう! 原口文仁さん